

ミステリ読書案内

2024. 4. 20 発行元

第568号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

梶林太郎 追悼特集

2月29日の新聞で梶林太郎の訃報を知った。昨年も作品を出版し、まだまだ活躍を続けてくれるのだらうと思っていたのに…。残念なことだ。その長年の活躍に感謝し、「追悼特集」を組もうと考えた。

山岳ミステリの作家

右の『ベスト表』を見てもらえばわかるように、梶林太郎は「山岳ミステリ」の代表的な作家であった。私の既読は194冊で、未読が32冊あるので、総著作数は226冊+αといったところだろうか。

どれが代表作かと問われてもなかなか答えにくい。出来は似通っており、群を抜いてという作品は明確

ではない。しいて言えば私は『旅行作家・茶屋次郎シリーズ』の作品が好きだ。数からいえば『道原伝吉シリーズ』が一番多い。

中堅クラスの作家としての位置取りで、ベストセラーになったというわけでもない。ノベルスの出所も最大手ではなかったもので、今後忘れられていくスピードも早いかもしれない。ただ私としては何冊かは記憶に遺してほしいと願う。

《梶林太郎作品のベスト表》

1. 紀伊半島潮岬殺人事件
2. 最上川殺人事件
3. 流転山脈
4. 石狩川殺人水系
5. 上高地・大雪殺人孤影
6. 北アルプス冬山殺人事件
7. 越前岬殺人事件
8. 黒部川殺人事件
9. 千曲川殺人事件
10. 長良川殺人事件
11. 天竜川殺人事件
12. 山岳鉄道殺人連鎖
13. 信濃川殺人事件
14. 笛吹川殺人事件
15. 北アルプスから来た刑事
16. 薩摩半島知覧殺人事件
17. 紀ノ川殺人事件
18. 夜叉の断崖
19. 京都保津川殺人事件
20. 無明山脈
21. 殺人氷壁
22. 殺人山行不帰ノ嶮
23. 煉獄の山
24. 神田川殺人事件
25. 金沢男川女川殺人事件
26. 松島作並殺人回廊
27. 高尾山魔界の殺人
28. 安曇野殺人旅愁
29. 安曇野・乗鞍殺人事件
30. 鳥海山殺人溪谷
31. 殺人山行穂高岳
32. 四方十川殺人事件
33. 出羽三山殺人事件
34. 京都鴨川殺人事件
35. 日光・鬼怒川殺人事件
36. 星砂の島殺人事件
37. 奥能登幻の女
38. 奥入瀬殺人溪流
39. 屋久島殺人原生林
40. 怨殺西穂高独標
41. 殺人山行燕岳
42. 長崎有田殺人窯変
43. 遠山郷雲海の殺人
44. 十和田奥入瀬殺人回廊
45. 安芸広島水の都の殺人
46. 殺人山行劔岳

「流転山脈」

1997年幻冬舎ノベルス。人情刑事・道原伝吉シリーズの一作。群馬県月夜野町でタクシー運転手が殴殺されているのが見つかった。犬か鳴いて、空になったタクシーを地元の人が発見し、警官が周りを捜索して草むらの中から遺体を探し当てた。東京の運転手で、金を奪われたようだが、キーを運転手が引き抜いていたようなので車は取られなかったと見られる。運転席にテープレコーダーがあり、乗客との会話が録音されていた。最初は山の話だったのが、月夜野に来てからは住宅を探し回ったような流れだった。「スギタ」「スギシタ」「ハリウ」という家を捜していたらしい。地元の沼田署では手掛かりを求めるのだが…。長野の豊科署の道原刑事が登場するのは70ページを過ぎてから。北アルプスの梓川上流で東京武蔵野市の関口という人物が遺体で見つかった。転落死にも見えるが、腰に傷があり他殺の可能性も考えられた。関口は月夜野町の出身で、たまたま沼田署を訪ねてきたなら、タクシー運転者殺人事件を知らされた。ここから道原はふたつの事件の繋がりを突き詰めていくことになる。

「信濃川殺人事件」

1996年祥伝社NONノベルから出た本。旅行作家・茶屋次郎シリーズの第七作。冒頭、茶屋と事務所のハルマキ(春川真紀)とサヨコ(江原小夜子)があれこれと話を交わし、『女性サンデー』の山倉に連絡して次の連載『名川シリーズ』の調査地を決めていくのは毎回お定まりのコース。

今回はかつての知り合いからの手紙をきっかけにして次のテーマを「信濃川」に決める。茶屋は上越新幹線で長岡に出掛ける。その酒蔵の坂垣友一郎という人物を知っていたからである。酒造所を訪ねると坂垣は二ヶ月前に信濃川河畔で自殺して亡くなっていることを聞かされる。不審に思った茶屋は事件について調べ始め、坂垣と親しくしていたという弥彦山近くの岩室温泉の芸者・雪乃にたどり着く。あと一歩というところで、雪乃のアパートが放火で燃えてしまい…。